

～ 119番通報と連携しスマートフォンアプリでAEDを心停止現場へ届ける実証実験 ～

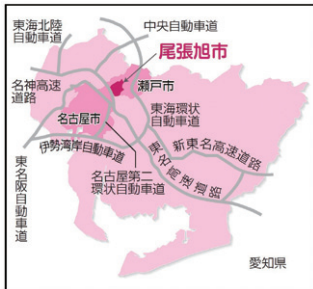
心停止現場へAEDを

愛知県 尾張旭市消防本部

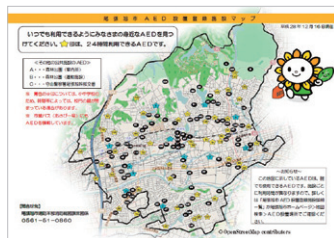
1 尾張旭市の概要

本市は、愛知県の北西部に位置し、中部圏の中核都市である名古屋市に隣接しています。管轄人口は約8万2千人、面積21.03km²を有し、そのうち約16%を愛知県森林公園が占めており、緑と元気あふれる住みよいまちを目指しております。本市消防本部は、消防職員82人、1本部1署体制で、市民の安全安心の確保に努めています。

また、WHO（世界保健機関）の西太平洋地域健康都市連合に加盟するとともに「健康都市 尾張旭市」を宣言し、「寝たきりにさせない」「外に出かけたくなる」「住み続けたくなる」まちづくりを推進しています。



尾張旭市位置図



尾張旭市AEDマップ

2 実証実験に至った経緯

本市では、いつでもだれでもAEDが利用できる環境整備を目的とし、平成24年4月からあさひAEDサポート事業を開始しました。本事業は3つの制度から成り立っております。

- ①市内のイベント等へ無料でAEDを貸し出す貸出制度
- ②市公共施設のAED等が適切に管理されるように支援する管理支援制度
- ③市内のAED設置施設を登録し、施設のAED（点）ではなく、地域のAED（円）として有効活用する登録制度

こうした中、登録制度の開始当初からの課題であった、いつでも（休日・夜間）AEDが利用できる環境の整備

として、平成26年5月から東海3県では初めて市内の全コンビニエンスストアへAEDを設置しました。

また、上記取組の中で、AEDの利用環境の地域差が生じたため、その緩和策として、平成28年7月から市内の全小中学校や集会所等の一部公共施設へAEDを屋外設置し、いつでもAEDが利用できる環境の充実強化を図りました。

だれでもAEDが利用できる環境整備としては、救命講習の定期開催や119番受信時に心停止の疑いがあれば、最寄りAEDの積極的な案内等を実施しています。（登録施設151施設、うちいつでも利用可能な施設61施設、平成28年12月1日現在）

そうした中、京都大学健康科学センターでは石見教授が中心となり、メーカーと共にスマートフォンアプリを利用して、広くAEDが使われるための救命アプリ開発を目指していましたが、心停止時に、一般市民にアプリでSOS通知をしてもらうのが、現状なかなか難しいということもあり、消防との連携を模索していました。

そして、全国ニュース等で本市の上記の取組を知ることとなり、本市を訪問したことから関係がスタートし、その後打ち合わせを重ねた結果、合意に至り、今回の実証実験の運びとなりました。

本市としても、いつでもだれでもAEDが利用できる環境の整備を進めており、だれでも利用できる環境の整備として救命講習や119番通報時の通信指令からの最寄りAEDを案内すること以外に何かないか、方法を検討していた矢先でした。

3 実証実験の概要

実証実験は、平成27年10月1日から平成28年3月31日までの期間で実施し、119番通報時に心停止を早期に認識することができる、消防指令センターに置いたタブレット端末からSOS通知を行いました。

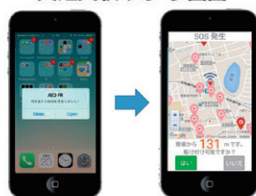
119番を受ける消防指令センターは、心停止と判断した傷病者の位置情報と付近のAED情報を、指令センターに設置したタブレット端末にインストールした送信用アプリにより、受信用アプリをインストールしたス

スマートフォン端末を持つ登録者にSOS通知し、それを見た登録者が駆け付け可能な状態であれば、AEDを持って駆け付けることで、救命率の向上を図るというものです。119番通報と連携の上、スマートフォンアプリを活用してAEDを届けるのは、全国初の試みとなりました。

登録者については、消防職員及び消防団員のうち、実証実験への参加に同意をいただいた約120名と取組に賛同された市長が登録されました。



実証実験 アプリ画面



実証実験のアプリの流れ



4 実証実験の結果

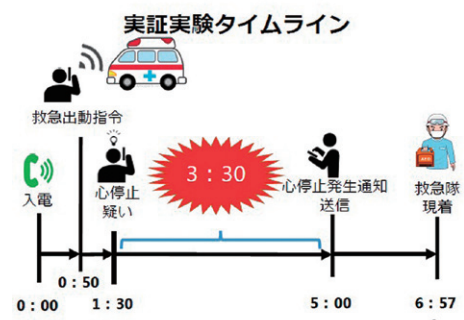
- ・通知事例 70事例
- ・実際に行動に移した事例 16件
- ・AEDを手に入れた事例 5件
- ・現場にたどりついた事例 4件
- ・救急車より早く現場に到着した事例 1件
- ・救急隊より早くAEDを使用した事例 0件

通知第1号に本市水野義則市長が駆け付け、その模様について市長自身のブログで詳細に報告していただきました。その後も実証実験について度々ブログで取り上げていただいたことは、実証実験参加者のモチベーション向上に大きな影響を与えました。

5 実証実験から分かった課題

実証実験から分かった大きな課題としては、119番から指令員が心停止と判断し、通知を送るまでに、約3分30秒要していたことです。本市は、119番覚知から平均7分弱で救急車が到着するので、これでは救急車到着までにAEDを持って現場へ駆け付けるのは困難な結果となりました。

その要因は、救急車に出動指令をかけた後、指令員が心停止疑いと判断した場合に、消防指令台とは別置き of 通知用タブレット端末に現場住所と患者情報を打ち直し、地図と照らし合わせて間違いがないか確認後に発信していたため時間を要していたこと、重ねて心肺蘇生法の口頭指導や救急隊との無線交信、搬送病院の選定など、業務多忙な中行っていたため、と分かりました。



なぜ通知発信に時間がかかるか



多忙な中で、司令台で表示されている情報を、タブレット端末へ打ち直すため

6 今後について

今回の実証実験から分かった課題を踏まえ、消防指令センターの指令台にアプリを組み込み、心停止と判断した時点で遅れることなく通知ができるようなシステムを構築し、登録者についても婦人消防クラブへの登録者を広げ、平成29年1月から再度、実施実験を開始しています。

また、現在実施している実証実験について検証を行い、今後の本格運用に向け、取り組んでまいります。